



# 道路政策の改訂に就て

内務大臣 望月圭介

政治の目的は國民の福祉増進を圖るに在る。國民の福祉を増進するとは、一般的社會文化を益向上せしめ、國民の經濟生活をより豊かにすることに外ならぬ。其の方途固より甚だ多々あるけれども、交通機關を普及完備せしめ、産業の振興を期することは最も緊切なることの一に屬する。蓋し交

通は國民經濟生活上必須條件であつて社會生活の基礎であるからである。

近代交通機關は甚だ多種多様であるが之等諸種の交通設備及び運送用具は、夫れ々々特異の機能をも有し、廣く交通目的の上から觀れば互に相關々係に立つて其の特異とする各部分を分掌し互に連絡して、以て社會の交通要求に應ずべきものであるから、必ずしも其の一を採つて以て最も重しとし他を忽諸に附すべからざるは勿論である。けれども其の輕重の問題と緩急の問題とは自ら別個であつて、其主力を注ぐべきものは其の時期に於て最も切實に最も廣く社會より要求せられて居る交通機關たることを要する。此の意味に於て考察するときは今日最も其發達を助長すべきものは自動車である。而して之を助長し其の機能を十分發揮せしむる爲には自動車の利用する道路を改良すべきことは今日最も緊切なる事であると信ずる。蓋し現代交通機關の最も理想的なるものとしては、運送の完全、速力の優秀、經費の低廉なることの三要件の外更に最も其の存在が普遍的にして交通需要を公平に満足せしめ得るものでなければならぬが、自動車は最も善く之等の要件を具備してゐるから、其の交通に必要な道路を普及發達せしむることが運輸交通の基本的事業である。

世界各國とも自動車の利用は近年頓に激増し、我國に於ても所謂乗合自動車の如き、嘗に國道府縣道又は市道に止まらず、町村道に至るまで其の經營領域を擴張し、如何なる僻陬の地に於ても乗合自動車の片影を認めざることなき狀況である。我國の如く尙甚だ不完全なる道路の現況に於てすら實用期に入つて以來の自動車は此の如く目醒ましい發達を遂げ、我國の經濟上に齎らした效果は寔に著大であつた。

叙上の如き趨勢に在るを以て自動車に依る道路運輸は今日既に鐵道と對立する陸上運輸の一大權威であることに一點の疑ふべき餘地なく、將來に於ては必ずや或る特定の範圍内に於ては鐵道よりも却つて重要な地歩を占むるに至るであらうとさへ考へられるのであつて、道路の改良は今や世を擧げて之を渴望する所である。

## 二

然るに我國の之に對する道路政策如何と云ふと、大正八年漸く道路法の制定に依つて道路行政の法制的基礎定まり、大正九年度以降三十ヶ年に亘り二億八千萬圓の道路改良計畫が樹立されたのであつた。之が所謂原内閣の道路政策である。其の内容に付てはこゝに詳説を避けるが、其の計畫は大正九年來着々實行の途に就き兎に角之が順調に實行されて居たのであつたが、不幸にして過ぐる關東の大震災火災の爲に豫算を減ぜられ、更に行財兩政整理の爲に國の豫算は僅かに三百五十萬圓に極限せられて今日に及び、大に期待されて居た彼の大計畫も一頓座を來した態であつて、若し之が順調に實行されてゐたならば我國の道路は今少しく改善せられて居たであらう。併しながら此計畫の實行に依つて大正九年來約三千七百餘萬圓を道路の改良に投じ助成した道路は、六大都市内の街路及之等都市を結ぶ國道の改築並に長大な鐵橋の架設等に亘つて、彼の京濱阪神兩國道の如き又は古來天下の難路と稱せられた箱根鈴鹿の如き或は東海道著大架橋の如き極めて模範的代表的なもの、改良を實行し相當に成績を收めたが、未だ廣く社會一般の經濟的需用に應ずる程度の改良に及

ばなかつた。従つてこゝ數年來の小額なる豫算を以てしては固より甚だ不十分であるが、政府の財政に餘裕がなかつたが爲に已むなく今日に及んだのであつて、到底原計畫の踏襲實行を以て満足すべきではなく、相當之を改訂するの必要に迫つて居た。故に田中内閣の成立するや、産業立國策の見地に立つて現代の要求に適應する様直ちに之が改訂を企て、一般道路改良費の外新に産業道路助成費なるものを創設して、産業の振興を期する上に最も緊密なる關係を有する重要府縣道を自動車交通に適する程度に改良せしめ、自動車の有する機能を十分發揚し交通能率を増進せしむることを期したのである。昭和三年度豫算は不幸不成立に終つたけれども、四年度に於ては既に豫算成立し實行期に入つた譯である。

## 三

改訂計畫に於ては第一期事業として十ヶ年間に一億九千萬圓を支出するものとし、從來の國道府縣道及街路改良計畫に多少の改訂を加へた外、此内六千七百七十九萬五千圓を専ら産業道路助成費に充て、府縣道にして産業政策上最も重要なもの六千里の内先づ千五百里を改良せむとするものである。此計畫に基き昭和四年度豫算に於ては道路改良費總額を六百五十萬圓に増額し、内二百萬圓を産業道路助成費に充てることとした。改訂計畫の骨子は實に産業道路助成費の創設に在る。此の計畫を以てしても未だ十分でないのは勿論であるが、政府の現財政を以ては重要府縣道の全部に對し改良を助成するの餘裕を有しないのであるから、之が豫算の實行に方つては最少の經費を以て

最大の効果を收め得べき路線を選擇し交通幹線に屬する國道の改良と相俟つて交通の完備を期せなければならぬ幸に吾人の期する所に従つて各地方が道路改良を計畫するに至つたならば必ずや更に自動車の利用の増加を招來し其の機能を十分に發揚するを得て我國産業の進展に裨益することと世大であらう。吾人は大なる希望を以て當路に期待する。

## 産業道路政策の實行に就て

貴族院議員  
法學博士

水野鍊太郎

道路は産業の發展に必要な機關であることは、今更事新しく言ふまでもないのである。富源が如何に豊富であつても、之を輸送搬出するところの途が開かれなければ、其の富源は死藏せらるゝのみであつて國家社會に何等の利益をも齎し得るものではない。之を開發して國民の資に供する爲には、其の物資を搬出しなければならぬ。而して之を搬出するには、交通機關に依るの外はない。